

募って組織を作り年に1～2回伝承会を行ったらどうか、生産性
＜80代以上＞後継者不足、多方面からの協力者が必要

【設問7】共和地区の今後の課題は何ですか。

＜10代・20代＞記述無し

＜30代＞住民に対する環境教育、空家の片づけへの補助、民主的な意思決定

＜40代＞記述無し

＜50代＞人口の減少や高齢化の対策ができたとしても、先住者と移住者の意識が違っていると現状は変わらない

＜60代＞記述無し

＜70代＞道路の整備、自治会要望の実践、地域組織の維持

町外に勤務する若者に、この地に住めとは言にくい。

地域住民の高齢化と人口減少で、全住民に頼る事業が多くなっている。

運転免許の返納や農地・山地の放棄という現状と、地域活動の多忙化は矛盾している（地域以外ではわからないから評価しているが…）。

移住者を受け入れる風土（精神的・物理的）が弱い。

移住者の思いや希望を尊重して支援する気持ちが薄い。

地区全体の体制づくりができていない。

＜80代以上＞既に限界集落に入っている、道路の幅員拡張と時差信号の設置

【設問8】共和地区の各組織や団体、行政への要望は何ですか。

《共和地区の各組織や団体に対して》

＜10代＞記述無し

＜20代＞人口の減少に伴い組織や団体の運営方法を変えていかないと負担が大きくなる

＜30代＞各種の組織や団体に掛け持ちで所属している人が多いので、各組織・団体で所属員を把握し、それぞれの会議や活動を同日に時間をずらして開催する等、効率的に参加しやすい環境を整理したほうが、仕事や子育てがある方には良いと思う。

共和のもりセンターの各部屋を個人に工房や店舗として安価で貸し出してほしい。

＜40代＞各団体の活動が不透明で非常に閉鎖的。LINEやSNSを利用して若年層への情報提供・報告を周知徹底できれば改善できるのではないかな。

＜50代＞記述無し

＜60代＞地域に根ざした新しい考えや人材の活用

自治会等の役員のなり手が今後心配になる。

財産区会計の詳細な公開。（監査員は地区住民以外の有資格者を）

＜70代＞組織や団体が多すぎるので統合すべきである（※同意見2件）

行事を全住民行動とするのは無理がある。公共的施策以外には有志の活動としてはほしい。

行事は地域全員の同意で行うべきではないか。

一部の人達の考えで動いている。（若い人、新しい人達の考えや意見が活かされていない）

＜80代以上＞現在の各団体の長は頑張ってくれているが、いつまで続くか心配している。

＜年代不詳＞組織が多く、役割がわかりにくい。

《行政に対して…》

＜10～30代＞記述無し

＜40代＞つぶらの公園の活用方法を考えて、地域の活性化を行ってほしい。

<50代>記述無し

<60代>地域との活動連携を強める、いろんなところに行きたい

<70代>生活道路の整備（カーブ抜き、待避所の新設）

<80代以上>記述無し

<年代不詳>災害時の避難対策、豊かな自然や野生の動植物を保持してほしい、山林や農地の貸し借りや仲介をして持続可能な地域を維持してほしい

※上記以外に、『最近“男性”“女性”で括れない人がある。性別の記入は、その人達にとって障害になってしまう。削除の対象と考えていくべきだろう』という記述あり。

《女性》 回収率 78.8%（回収数 63/配付数 80）

【年代別回答者数】

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	年代不明	計
人数	1	6	2	4	12	13	16	9	0	63

【設問1】共和地区は住みやすいですか。（「はい」「いいえ」の理由）

<10～30代>記述無し

<40代>年間の行事予定を早く出してほしい。いきなり植樹や環境整備と言われても、仕事があるから困る。子どもも試験や部活があるし、土曜・祝日も仕事がある。

<50代>空間が広く人との距離が程よい、野菜がおいしい、花粉が多い、土砂崩れの危険倒木の危険

<60～80代>記述無し

【設問2】共和地区での自慢できることはなんですか。

<10代>記述無し

<20代>移住者に対して、それぞれ協力やアドバイスをしてくれる。

<30代・40代>記述無し

<50代>年齢に関係なく“生きる力”を身につけた元気な方が多い。

<60～80代>記述無し

【設問6】国指定（S56）重要無形民俗文化財「お峯入り」の継承について

①お峯入りを継承していくには、何が大切ですか。

<10代>記述無し

<20代>人と人との想いや考えの共有

<30代>記述無し

<40代>きちんとした映像と音源、仕事をしている人は肉体的にも時間的にも大変

<50代>地域外のマンパワー、移住してきた人達も祭りの意味を深く知ること

<60～80代>記述無し

②継承するうえで、何が難しいですか。

<10代・20代>記述無し

<30代>演者の確保

<40代>人が不足

<50代>共和の人だけでは成り立たない、山北町全体の協力が必要

<60代>人数不足

<70代>若い人が少ない、子どもへの伝承ができない

＜８０代以上＞記述無し

【設問７】共和地区の今後の課題は何ですか。

＜１０～３０代＞記述無し

＜４０代＞高齢化により運転免許の返納が多くなると、福祉バスの時間帯や運転手の確保等々、交通手段に関すること。

＜５０代＞山で暮らしながら収入を得るしくみづくり

＜６０代＞未来を見据え舵を取る

＜７０代・８０代以上＞記述無し

【設問８】共和地区の各組織や団体、行政への要望は何ですか。

《共和地区の各組織や団体に対して》

＜１０代＞記述無し

＜２０代＞現在の組織の見直しと今後の課題を共有し、考える場がほしい

＜３０代＞記述無し

＜４０代＞年間予定を４～５月位までに出してほしい。もしくは１０月の第２日曜日とかに決めてほしい。突然言われても参加できない。

＜５０代＞福祉バスを土日祝や午後も利用したい、会社員には参加しづらい行事日程となっている、他人事ではなく自分事として考えていける力と発信力

＜６０代＞若者を呼べる地域づくり

＜７０代＞行事が多すぎる、助け合いの精神、共和が本当にモデル地区か？

＜８０代以上＞記述無し

《行政に対して》

＜１０代＞記述無し

＜２０代＞仲尾沢周辺の落石防止対策をしてほしい

＜３０代＞道路の舗装、ガソリン代の補助

＜４０代＞つぶらの公園の整備（ドローン飛ばせる・ドッグラン・アルパカを飼育して観光牧場とし毛刈りができる）、道路幅の拡張、崖崩れ等の防止・補強、鳥獣被害への対策（鹿、イノシシ）

＜５０代＞自然災害の多さと規模が拡大している。安心・安全に暮らしていけるように。各戸が離れているし、一人暮らしの方も多いので、非常時に押すだけで発信できる警報のようなものがあると安心。

＜６０代＞道路の整備

＜７０代＞道路の整備

＜８０代以上＞記述無し

(3) 移住者用アンケート結果

【年代別回答者数】回収率 76.9% (回収数 10/配付数 13)

年代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
人数	2	3	2	1	2	10

【設問 1】移住のきっかけや目的は何ですか。(複数回答可)

①	自然環境（空気や水、気候、食用の野草など）	4 人
②	インターネットや雑誌の記事等で共和に興味を持った	1 人
③	知人（共和の人も含む）に紹介された	5 人
④	手ごろな物件（土地、建物）があった	5 人
⑤	共和でやりたいことがあった※具体的な回答は次のとおり 自然に近いところで生活し「生きる基盤」を作る、林業、酪農、畑仕事、農業 動物を飼う、家庭菜園、木工、染色、山歩き、森林ボランティア	8 人
⑥	その他※具体的な回答は次のとおり アウトドア趣味を行うのに立地が良い(特に山・海・川が他市町村に比べ近い)、地理 的位置がよい(横浜在住の子どもや友人と遠くない位置である)、福祉バスがある	

【設問 2】共和地区の好きなところは何ですか。

- ・共和のみにいえることはあまりないが、山北全体でいうと、農地を含む土地・空き家が多くあり、様々なことに挑戦するチャンスがある場所が気に入っています。
- ・地域の人それぞれが暮らしの知恵を持っていて、集まって何かする際に、助け合っているところ。何事にも、楽しさを持って対してくれる人が多くて明るい。
- ・やりたいことが出来る。
- ・動植物が身近にいること。製材機などが借りられること。親切な人が多いことなど。
- ・移住者を温かく迎えてくださり感謝しています。皆さん優しいです。共和だけでなく山北全体にいえることです。
- ・良い人が多い。静かで自然が豊か。
- ・人の強さ・たくましさ。野生動植物の豊かさ。
- ・森林資源を初めとして自然が豊か。
- ・人口が少ない。先住者の人柄がよく、比較的住みやすい。
- ・自治会・振興会活動に熱心で参加しやすい。地域行事が様々あり、参加できる。

【設問 3】移住者を増やすために、何が必要だと思いますか。

- ・移住希望者が移住するまでのプロセスを考え、それに対する施策。
- ・どういう人を呼びたいかを選定する。
- ・町の定住対策課の先に行くような物件の取りまとめ、窓口の設置。
- ・元から暮らしている人も移住者も、共通した、あるいは各々が思う「良いところ」を地域の宝として伝えていける場やモノを考えたい。発表する場が必要。
- ・空き家を使えるようにして貸し出す。空き家や土地（田畑、山林）と人を繋げること。これ以上環境を悪化させないこと。移住者のサポートなど。
- ・空き地・空き家。田畑・山林の貸し借りの斡旋・仲介。
- ・空き家はあっても借りられる状態でないところも多いようなので、借りられる家が必要です。
- ・山北町の魅力を発信する。インターネットなどで。
- ・仕事があること。
- ・仕事。空き家として提供できる住宅。
- ・生活の利便性を高める。山北町の店舗、交通機関の整備・充実。

- ・周辺市町より子育て環境を高める。
- ・空き家・空き地などを発掘・提供と住環境整備、道路の整備・維持継続。
- ・地域の魅力を様々な方法で広くアピールし、共感者の定住を促進。

【設問４】移住して、困ったことや悩んだことはありましたか。

- ・外でお酒を飲んで、共和までの帰りが大変。
- ・地域の、将来の担い手世代が少ない。消防団など大変。
- ・地域の行事などで、どのように関わればよいか、悩むことがありました。少しずつ教えていただき解決しましたが。
- ・ありました。
- ・自治会・地域振興会・NPOなど色々な組織がありわかりにくかった。
- ・今のところありません。
- ・色々教えていただいたので、困ったことはないです。
- ・福祉バスが動いてない時間の移動手段。
- ・昔から住んでいる人から差別意識を感じることもある。
- ・救急病院が遠い、少ない。
- ・冬季の積雪、道路凍結による交通マヒ。予定を変更せざるを得なくなる。
- ・道路周辺の切り立ち、落石倒木が心配。
- ・畑がシカ・イノシシなどの被害にあった。ヒル・ダニ・ムカデ被害を受けた。

(４)移住に関わった方用アンケート結果

★○数字は、同じ人の意見であることを表す。回答者は 7 人なので①～⑦まで。無回答者は欠番とした。回答者の年代は 60 代～80 代である。

【設問１】移住してもらうために、どんな働きかけ、条件整備をしましたか。

①山地酪農に関わって（連合自治会長として）

討議資料を作成し、全戸配付した。営農説明会を開催し、住民の質問や意見を聞いた。自治会の総会で、移住者に挨拶してもらった。

移住者用のシェアハウスの取得について（連合自治会長として）

臨時総会を開催し、自治会員の総意で決定した。そこでの意見を踏まえ、「使用規定」を作成。翌年の定期総会の議案として提案。承認される。（シェアハウス使用者の条件として、自治会への加入、共和地域の振興に寄与するなどを入れた。）

②広報「共和のもりセンター」を 2018 年 5 月に発刊し（奇数月発行）、移住者の活動記事を連載している。広報による移住者と地域の親密性の向上、地域住民の移住者活動理解と支援促進、移住者の地域行事などへの幅広い理解を図った。

移住者の地域施設（もりセンターなど）の活用促進、日常活動協力・支援など。

③交流する事業の提案や情報発信

④住める空き家・空き地を探す。地区内の組織で、受け入れ体制作りを提案してきている。

個人的には、自分の畑で作ったものを差し入れている。

移住後、話し合いをして、困っていること、改善したいことを聞いている。

⑤関係人口を作ること。

⑥よく話を聞く。暮らせる施設の確保。住み始めたあとの面倒も見る。町の助成金申請などの情報を伝える。

⑦山北町にはたくさんの山があり、山林所有者も大勢いる。しかし、山がお金を生んでいない。山がお金を生む姿にすれば、山北町は豊かな町に成れると考え、シイタケ原木の生産・産地化を進めている。同時に、災害に強い山作り、動物の住める山作りも目指す。

【設問２】共和地区の良いところは何だと思いますか。

- ②自然が豊か、大野山がある。住民の人柄がよい。移住者は比較的住みやすい。地域は移住者を受け入れる。地域行事、地域活性化に熱心である。地域生活を守り、利便性確保・向上に心がけている。地域行事が様々あり、参加できる。
- ③自助・共助・公助の考えで、地域振興を推進していくこと。
- ④自然環境が多い。空気、水、太陽、森など。掘り起こせる「宝物」が眠っていること。コミュニティバスが運行されていること。
- ⑤自然
- ⑥自分たちの地域は自分たちで守る、共に協力する意識があること。
- ⑦人情、助け合い

【設問３】移住者を増やすために、何が必要だと思いますか。

- ①今までは、役員等の個人的対応が多かったと思うが、今まで以上に組織的対応が必要と思われる。現在、移住者の一人が町の定住対策課の「移住者交流会」の企画などに関わっている。
- ②道路整備、交通機関の確保。住居の確保、賃貸改築支援。森林資源の活用、地域の強みを生かした地域雇用の創出。地域活動の担い手育成。地域自治、振興活動の維持と革新。地域と山北町、その他自治体や企業との連携強化。プロジェクトによる各種事業の推進。
- ③様々な事業やイベントで情報発信をする。
- ④生活基盤（特に、経済的な）を作ること。人間関係の狭さを改善すること。移住者と話し合っ、困っていること、改善したいことを聞ける組織作りをすること。
- ⑤空き家対策
- ⑥地域は他町からの移住者を「よそ者」扱いでなく、受け入れる気持ちが大切。移住者の良いところを引き出す。
- ⑦人が住む集落の裏山の杉林、ヒノキ林を災害に強い広葉樹林（クヌギ、コナラ林）に変え、15年周期でシイタケ原木の生産を行い、お金になる山作りの楽しさを知っていただく。そのため、山林の貸し出しも提案する。

【設問４】移住者に期待することはどんなことがありますか。

- ①若者の発想で、私たち高齢者には思いも寄らない共和の魅力を引き出し、広めていってほしい。文教大の学生が言った「共和には宝がある」がヒントになる。
- ②地域自治・地域振興活動の理解協力。住民高齢化への対応、支援。森林の保全と利活用への参画。
- ③体験を口コミでPRして輪を広げていってほしい。
- ④新鮮な眼で共和地区全体（人間関係、地域環境）を見渡し、新しい発見・気付いたことを発信してほしい。（勿論、それを受け入れる人間関係が作られることが前提だが）その為に、全地区住民が参加する集まりを定期的を開催すること。
- ⑤地域の人に溶け込むこと。
- ⑥共に協力し、共に地域づくりに参加することを願う。
- ⑦「山を観るには、一度山から降りてみろ」と言われる。山に生まれ、山に住んでいると、自分が何をしようとしているのか、判らなくなることがある。別の角度からの意見が必要と思う。

社会教育委員だより

No.21

令和元年 9 月 1 日
山北町社会教育委員会議

令和元年度の「社会教育委員会議」がスタートしました。昨年までの委員が大幅に入れ代わり、ほぼ新しいメンバーで社会教育のあり方について検討することになりました。

今年度も、「社会教育委員会議」として考えていることや取り組んでいること等を地域住民の方々にお知らせし、共に考えていただきたいと思います。

山北町教育委員会から「諮問」を受けました。

諮問内容

少子高齢化時代における
社会教育のあり方



4/23 教育長より社会教育
委員会議議長へ

今、山北町は少子高齢化が一段と進んでいます。

令和元年 5 月 1 日現在で就学している小学生は、川村小学校が 369 名、三保小学校が 8 名と、合わせても 377 名にすぎません。山北中学校の全校生徒は 214 名です。それぞれが減少傾向にあります。

一方で、町の人口に占める 65 歳以上の高齢化率は 39.2% となり、今後は更に高い割合となっていくものと予想されます。

このような地域の現状から、町としても定住促進や移住対策等に重点を置いて取り組みを進めていますが、決定打と言えるような方策を見極めるのが難しい状況にあります。

地域社会においては、山北町の問題だけではありませんが、経済格差や子どもの貧困の問題、過疎化や交通手段の確保の問題、地域共同体意識の希薄化等々の課題が山積しており、これからの地域社会のあり方を考えるうえで大きな壁になっています。

令和元年度・山北町社会教育委員

河合剛英【議長】、山崎幸與【副議長】
佐藤博美【副議長】、清水玲子、瀧澤康子、
大澤洋行、村上健士郎、関優子、諸星カツ、
藤澤秀樹、武尾典幸、岩井隆豪

社会教育委員会議としても、上記のような少子高齢化や人口減少等々の厳しい現状を踏まえつつ、諮問された課題について、住民のみなさま方の声もお聞きしながら、社会教育のあるべき姿を探求していきたいと考えています。

少子高齢化時代における社会教育のあり方を考える

－共和地区の取り組みをととしての考察－

山北町の6地区の中で、「共和地区」は最も小さな地区です。令和元年5月31日現在で世帯数が92、人口は184名（男性94・女性90）です。

明治22年（1889）に、旧皆瀬川村と旧都夫良野村が合併して「共和村」となり、昭和30年（1955）に山北町と合併しました。その時の共和村の人口は117世帯、703名でした。山北町と合併してからの約60年間で、世帯数の減少はそれほどではないものの、人口は大幅に減少しています。また、町内では共和地区のみが、15～64歳の生産年齢人口よりも65歳以上の老年人口の方が多いという状況ともなっています。

社会教育委員会議が、今回の研究の対象として「共和地区」を採りあげたのは、上記のような急激な人口の減少、高齢化世帯の増加という社会現象の他に、各集落が山間部に点在しているという不便さや共和小学校の閉校という地域の精神的な支えを失うという状況にありながら、連合自治会・福祉協議会・青少年健全育成会・地域振興会等の組織が、長年にわたって「地域の活性化」や「縦横のつながり」、「生活の不自由さの克服」「伝統的文化の継承」等をめざして、不断的な努力を積み重ねてきたという実績があるからです。



共和のもりセンター

旧共和小学校（平成23年3月閉校）の校舎を改築した共和地区の中心地。標高334メートル！

お峯入り

国指定重要無形民俗文化財
山北町共和地区に伝わる民俗芸能。
「お峯入り」とは山中で修業を行うことを意味し、修験道の儀礼が芸能化したものと考えられています。



共和地区のこれまでの取り組みは、これからの地域社会のあり方を考える上で、大いに参考になるものと考えています。共和地区の皆様方には社会教育委員が各種行事を取材させていただく等でお世話になりますが、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



社会教育委員だより No.22

新年あけまして おめでとうございます。

令和2年1月1日

山北町社会教育委員会議

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

「少子高齢化時代」と共に国民の平均寿命も伸び、「人生 100 年時代」とまで言われるような時代を迎えています。経済状況や人々の働き方も大きく変わり、かつてのように悠々自適な「老後を楽しむ」という状況ではなくなってきました。長い人生をどのように生きていくかは、私たち一人ひとりにとって大きな課題ともなっています。

私たち社会教育委員は、今年度「共和地区の取り組みをとおして少子高齢化時代における社会教育のあり方を考える」をテーマに共和地区の各種行事を取材させていただきました。そこでは、共和地区の人たちの様々な工夫や努力を感じることができました。今号からそれらの取材結果を紹介します。

地域の良さの継承

▼ 誰もが楽しめるような工夫をする ～お参りだけではない



第 37 回ゲートボール大会 11 月 10 日（日）

共和地区の皆さんが親睦や交流を目的に年に一回開かれている。今回は、1 チーム 4 人、計 22 チームが参加した。町長、国会議員をはじめとする来賓の始球式で始まった。37 回も続いているわけは？

- ① 共和特別ルールの採用…苦手な人や子どもへ優しい！
…第一打が第 1 ゲートを通過しない時、ふつうは同じ位置からやり直しますが、2 打目以降を 1m ずつ前に出て打つ。
- ② 懇親会を企画…参加者が語らいコミュニケーションが深まる
…最初に優勝チームにトロフィー、全参加チームに参加賞！
- ③ より良いものをめざして…次年に向けた反省会



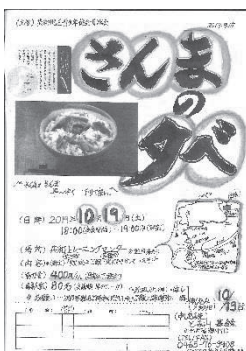
第 9 回夏祭り 8 月 11 日（日）

参加人数は 300 人以上。共和から外に出た人たちだけでなく、他市町からもこの日を楽しみに共和のもりセンターに集う。子ども神輿、13 の夜店、ステージでは様々な舞踊や演技が披露され、エネルギッシュな企画が参加者を大いに楽しませしてくれる。



地域の活性化

▼新しい企画や地域の魅力が仲間を呼び込んだり、他地域からの移住を促進したいする。



さんまの夕べ 10月19日(土)

海のない山の中の共和地区でなぜ「さんまの夕べ」なのでしょう。

- ① 「海の恵みは山の恵みから」
…共和の山の栄養が海を豊かにするという考えから山の中でさんまの夕べを行っている。
- ② 子どもたちがさんま料理作りの体験をし参加者は50人を数える。
- ③ 多くの皆さんに参加してもらうためポスターを作っている。

放送局 テレビ朝日
日時 11月30日
番組名 ごはんジャパン



テレビ番

00字 人生の楽園 山形の里
心も耕すりんご農家宿
30字 ごはんJ 神奈川牛乳
56字 池上彰そうだったのか
世界地図を見てわかる

魅力ある共和に移住した若者の紹介

※山北町あんしんメール 11月29日より



テレビで放映

山北町で、若くして山地酪農を志し、一人で奮闘する女性酪農家へのエールを込めて、牧場で採れた濃厚なミルクと地元の野菜をふんだんに使い、洋食の匠が腕をふるう！果たしてその味わいとは！？

地域のつながり

▼個人でできないことは、地域で団結して克服する。

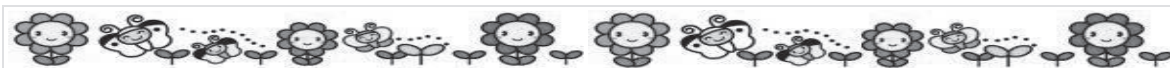


共和エコの日 9月22日(土)

数年前から共和地区でも被害が出始めたヤマビル駆除対策。個人で駆除するのではなく、薬剤散布を地域住民全体で行うことで効果をねらっている。バスの運行経路を中心とした沿道等へ塩カルとリンゴ酸を年2回散布している。

全国社教連会報より「学校支援から地域との協働へ…社会教育に期待されること

地域格差が拡大し、課題が多様化し、個々の家族や個人が抱える課題とその背景も複雑化している現在、…(中略)…地域における多様な活動が子どもたちや家族との絆づくりの場になることが期待されています。また活動に関わることは担当した人々の成長を促すという面もあります。従来の学校教育、家庭教育では行き届かなかった部分を支援する協働活動が地域づくりの核ともなりうるのです。社会教育に期待されることは益々拡大しているといえます。(社教連会報No.85)



社会教育委員だより

No.23

令和2年3月16日

山北町社会教育委員会議

この1年間、私たち社会教育委員会では、「人口の減少」や「過疎化」、そして「少子高齢化」という地域社会にとって難題とも言える現状を踏まえつつ、「少子高齢化時代における社会教育のあり方」を模索してきました。「学校教育以外の教育は社会教育である」という幅広い活動内容と、人々が生涯にわたって学び続ける環境や体制づくりを考えると、どのような指針を提示すればよいのかは、かなり難しい課題でもありました。このような中で、一つのヒントとなったのが共和地区の取り組みです。共和地区の高齢化率は52.81%になっています。他地区と比較すると、かなり高い割合になっています（右表参照）。

しかし、高齢化社会であり山間部に点在する集落であるからこそ、地域の人たちが協力し、不自由さを克服している事例があります。

【山北町の高齢化率】

※R2.2.1現在 福祉課調べ

山北町全体	39.51%
山北 地区	40.53%
岸 地区	38.05%
向原 地区	38.17%
三保 地区	42.89%
清水 地区	43.85%
共和 地区	52.81%

福祉バスへの挑戦



※1号車の運行…6:32～19:42、2号車の運行…7:15～12:00

▼個人でできないことは地域で団結して克服する。自助・共助・公助の精神！

自治会役員の方の声

共和は「自然が豊か」ですが、厳しく不便なことが多いです。だから、知恵を出し、改善の工夫をします。そのためには地域の協力体制が必要です。町がやってくれることをただ待つのではなく、地域でできることはまず地域でやらなければいけません。それでもダメな時は町にお願いします。自助・共助・公助の精神です。そこで生み出されたのが「共和福祉バス」です。

福祉バスはどんなことに役立っていますか。

福祉バスは、1号車と2号車（軽）があり、高齢者の方の買い物、病院通いや学生の通学に利用するなど、なくてはならない地域の交通機関になっています。



福祉バスのことを詳しく教えてください。



福祉バスは、月曜日から、金曜日まで平日だけ利用できます。現在、午前 3 便、午後 4 便の定期的に動いている「定期便」と電話で予約ができる「予約便」があります。2 号車（軽）は、「ドアツードア」の申し込みがあると、午前中に玄関前にも来てくれます。特に歩行が難しい方に役立っています。2018 年度は合計で 5,677 人が利用しました。

平成 23 年に共和地区福祉バスとして運行を始めましたが、それまで長い時間がかかりました。本格運行が始まった時は本当に嬉しかったです。



福祉バスの主な歴史

2004 年（平成 16 年）深沢地区で先行実施	2008 年（平成 20 年）福祉バス安全祈願式 ・住民に披露 ・共和地区福祉バス試運転 ・福祉バス待合所（2 カ所）完成祝い式典
2005 年（平成 17 年）地域住民集会	
2006 年（平成 18 年）共和巡回バス委員会 ・近隣タクシー会社に見積もり依頼 ・役場が巡回バス支援体制へ	
2007 年（平成 19 年）5 人乗りバス 1 回目試行 ・レンタカー 10 人乗り 2 回目試行 ・住民アンケート、81%バス導入を！ ・地域全体会議、運行計画と意見交換	2011 年（平成 23 年） ・試行 3 回目 共和小学校閉校 ・ <u>共和地区福祉バス本格運行実施</u>



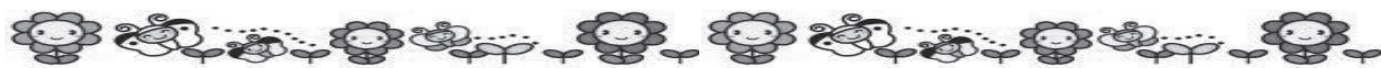
これから映画会楽しみだわ！

地域の方が、「小地域サロン」に参加するために、会場の共和のもりセンターに福祉バスを利用してやってきた時の写真です。「小地域サロン」とは、共和地区住民福祉協議会が主催するお茶飲み会で、地域の人々の昔話やゲームなどを行います。今回は、初めての映画鑑賞会でしたが、とても好評だったそうです。

共和福祉バスは、共和地区住民が会費を負担し、会員となって設立されました。利用者の声や運行上の問題を協議する事務局会議が毎月あり、町企画政策課長も参画する運営会が年 3 回あります。地域の人たちは、より良く生きるための方策をいつも模索しています。

取材を通じて、過疎化や少子高齢化に立ち向かっていくために、強力なリーダーと支える人たち、そして協力する地域住民という三位一体の関係があることの重要性を改めて感じることができました。





社会教育委員だより No.24

令和2年9月1日 山北町社会教育委員会議

昨年度から、山北町社会教育委員会議では【少子高齢化時代における社会教育のあり方を考える ～共和地区の取組みをとおしての考察～】をテーマに、共和地区の各種行事や取組みを取材し、地域の課題や今後の展望等についても、各組織の代表の方々からお話を伺いました。

共和地区に限らず、過疎化や高齢化への対応は難題であり、一地域の工夫や努力で解決できるような容易な課題ではありません。しかしながら、「時の流れるままに手をこまねく状態が続いて良いのでしょうか」と言うのが新たな問いかけになってくると思います。



共和地区はこの30年程の間に人口が半減し、高齢化率も町内で一番高くなっています。人口減少や高齢化は里山の荒廃や耕作放棄に繋がり、鳥獣被害や山林等での自然災害の増加の要因にも成り兼ねません。ただ、取材を通して大きな課題を抱えながらも、様々な工夫や努力を重ねながら、人々が生活している実態も浮かび上がってきました。

私たちはこのような実情を踏まえ、今年4月末に共和地区の中学生以上の全住民を対象としたアンケート調査を実施しました。調査項目には、選択肢のほかに自由記述欄も設けて意見を求めました。また、共和地区では自然環境を活かした多様な取組みをする中で移住者も増えていることから、移住者や移住に関わった方々へのアンケート調査も実施しました。

共和地区の皆さま方には、昨年度の各種行事への私たちの社会教育委員の参加をはじめ、今回のアンケート調査を含め、ご理解ご協力をいただき誠にありがとうございました。

考察結果につきましては、来年2月に山北町立生涯学習センターで開催予定の神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会で発表し、皆さまには紙面で報告をさせていただく予定です。



今年度も社会教育委員会議の取組みにご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

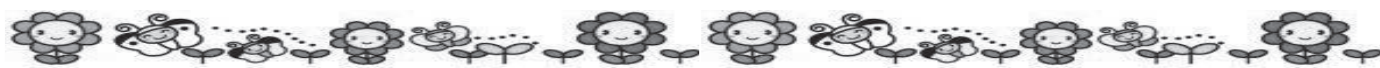
議長：河合剛英 副議長：山崎幸與、佐藤博美

委員：清水玲子、瀧澤康子、大澤洋行、村上健士郎、武尾典幸、関 優子、岩井隆豪

【新任】金子妙子（山北町文化団体連絡協議会）

【新任】高橋栄治（山北町 PTA 連絡会）

※選出組織の役員改選に伴い、本年度上記2名の方が委員に新任されました。



社会教育委員だより No.25

令和3年1月1日 山北町社会教育委員会議



あけましておめでとうございます

よき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



昨年も山北町社会教育委員会議の活動にご理解ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。特に共和地区の皆さまには、調査研究に伴うアンケート調査にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

昨年の春先から新型コロナウイルスの感染が拡大し、山北町でも社会教育（生涯学習）に関わる多くの行事が中止、あるいは「3密」を防ぐために活動の規模を縮小しての開催という事態が続いています。いつ感染が収束するのか見通しが立たないという不安感がありますが、今年も十分な予防対策を講じながら、諸活動を進めていく必要があります。

こういった状況の中、私たち社会教育委員会では毎月会議を開催し、令和元年度から約2年間をかけて【少子高齢化時代における社会教育のあり方を考える ～共和地区の取り組みをとおしての考察～】という研究課題に取り組んできました。

社会教育委員が共和地区の各行事に参加したり、地区住民へのアンケート調査を実施したりすることにより、地域の実態や課題等が鮮明となり、現状や将来に対する住民の意識を把握することができました。社会教育委員会ではこれらの結果をまとめ、神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会での県内市町村への発表と、3月末の山北町教育委員会への答申に向けて取り組んでいます。

私たちが取り組んでいる【少子高齢化時代における社会教育のあり方を考える】という課題は昭和の終盤から平成、そして令和の時代にまで続く大きな社会状況の変化の中で、全国のどこの地域社会も抱える今日的な問題ではあるものの、一地方の取り組みでは解決への筋道がなかなか見通せないという大きな難題でもあります。

また、地域の活性化や住民の融合等を目指して、先駆的に活動が続けている共和地区をとりあげましたが、これを他地区にまで広げ、普遍化していくには、様々な条件整備や体制の強化、核となる指導者の育成や行政のバックアップ等々、課題が多いこともわかってきました。

今、私たちの社会は全国的な規模で少子化・高齢化・過疎化が進んでいます。それだけをとっていても社会教育（生涯学習）を推進する上で大きな壁となりつつあります。またマスコミでもとりあげられているように、格差の拡大やひきこもりの増加、児童虐待や人権を無視するようなヘイト問題の増加等々、人と人との繋がりを細くさせるような事象や事件が増えているのも心配です。「共に生きる」「共に育てる」「共に活動する」「共に喜び合う」「共に支え合う」といった、ごく自然な人間関係や社会環境を再構築することが社会教育（生涯学習）を進めるために必要なのではないかと考えています。

山北町社会教育委員名簿

任期（平成31年4月1日～令和3年3月31日）

役 職	氏 名	選 出	任期歴
議 長	かわい 剛 英	岸	5 期
副議長	やまざき 幸 與	共 和	1 期
副議長	さと 藤 博 美	三 保	2 期
委 員	しみず 玲 子	山 北	1 期
委 員	とりうみ 昌 俊	山 北	平成31年4月1日～ 令和元年8月
委 員	たき ざわ 康 子	岸	2 期
委 員	おおさわ 洋 行	向 原	1 期
委 員	むらかみ 健 士 郎	向 原	1 期
委 員	たけ お 典 幸	清 水	1 期
委 員	もろほし 星 カ ツ	文化団体 連絡協議会	平成31年4月1日～ 令和元年11月
委 員	かね こ 妙 子	文化団体 連絡協議会	令和2年5月27日～
委 員	ふじさわ 秀 樹	P T A 連絡会	平成31年4月1日～ 令和2年3月
委 員	たかはし 栄 治	P T A 連絡会	令和2年5月27日～
委 員	せき 優 子	婦人会 連絡協議会	1 期
委 員	いわい 隆 豪	校 長 園長会	1 期

事務局	まつだ 浩 義	山北町教育委員会生涯学習課 課長
	かとう 陽 一 郎	同 社会教育指導員【平成31(令和元)年度担当】
	かとう 拓 也	同 副主幹【令和2年度担当】

令和2年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会【山北町会場】

発 行 山北町社会教育委員会議

発行日 令和3年3月

事務局 山北町教育委員会生涯学習課

〒258-0195

神奈川県足柄上郡山北町山北1301-4

Tel 0465-75-3649